



写真1. 昭和火口内で確認された溶岩(2011年5月31日)

2009年ごろから夜間には頻繁に火映が観測されていることから火口内に溶岩が上昇していることは従来から指摘されていたが、直接火口内の溶岩が鮮明に撮影されたのは初めてである。溶岩ケーキの大きさは約50mであり、中央部に赤熱部分が目視できる。海上自衛隊航空機より鹿児島地方気象台撮影。



写真2. 南岳A火口(2011年9月5日)

昭和火口における爆発回数が急増した2009年以降、南岳の爆発は2009年10月3日、2011年2月7日のみである。2011年9月の時点では南岳A火口内に灰緑色の水がたまっているのが確認された。第十管区海上保安部鹿児島航空基地所属うみつばめより井口正人撮影。



写真3. 2011年の昭和火口の状況(2011年9月5日)

写真1と比較すると昭和火口内に多量の火砕物が堆積しているのが分かる。昭和火口における噴火は南岳の爆発に比べると爆発力が弱いので、火口内にフォールバックする噴石も多い。第十管区海上保安部鹿児島航空基地所属うみつばめより井口正人撮影



写真4. 南岳山頂火口と昭和火口の比較(2011年9月5日)

南岳の東山腹において活動を再開した昭和火口は徐々に火口を拡大してきた(左側)。直径700mにおよぶ南岳山頂火口に比べるとまだ小さいが、直径はおよそ半分の350mに達している。第十管区海上保安部鹿児島航空基地所属うみつばめより井口正人撮影。